

月刊 アカサス ニュース

第30号 1998(平成10年).12

「アカサス」とは、古代ギリシャ・ローマに由来し、金沢大学の校章にも使われている植物の名称(和名「ハアザミ」)です。

フルブライト・メモリアル基金事業 米国教員一行38名が本学を訪問

トップニュース Top News

フルブライト・メモリアル基金事業による米国の現職教員一行38名が、県内の教育施設を10日間にわたって訪問する予定で、11月24日、本学教育学部を訪れた。

岡田晃学長等から歓迎のあいさつがあった後、本学の教育学部教員、附属学校教諭、本学で研究するアメリカ人研究者それに協定校への留学経験学生を交えての意見交換会では、教員養成に係る現状と役割などについて活発な意見交換が行われた。一行からは、「日本における理想的な教師像とは」など熱心な質問も寄せられた。また、幼稚園、小・中学校、高等学校の教諭と直接意見を交換する分科会も設けられ、教育現場の問題が率直に語られた。



歓迎のあいさつをする岡田学長
= 11月24日、教育学部音楽ホールで



質問をする米国教諭
= 同上



全体集会で意見交換をする日米両国の教諭
= 同上



握手を交す米国教員一行の代表と岡田学長
= 同上





巻頭言

個性が輝く大学の構築



学部・大学院問題
検討委員会委員長
法学部長
鴨野 幸雄

本年10月大学審議会は「21世紀の大学像と今後の改革方針について」-競争的環境の中で個性が輝く大学-という答申を出した。

その柱は4つある。(1)は、課題探究能力の育成を目指した教育研究の質の向上である。学部教育では、主体的に変化に対応し、自ら将来の課題を探究し、その課題に対して幅広い視野から柔軟かつ総合的に判断を下す能力(課題探究能力)の育成を重視する。そのためには、教養教育重視に立って教養教育と専門の有機的連携の確保、責任ある授業運営と厳格な成績評価履修科目の上限設定、あるいは教育内容・授業方法改善の組織的取組を大学の責務として明確化すること等が求められる。大学院教育では、教育研究の高度化・多様化を一層はかり、大学院重点化に向けて大学院を組織上強化すること、研究者養成に加えて高度専門職業人養成もより重視した修士課程を促進することなどがうたわれている。(2)は、教育研究システムの柔構造化による大学の自律性の確保である。多様な国民の学習需要に対する弾力化策として、学部では3

年以上4年未満の在学で卒業の道、9月入学の拡大や、大学院では修士1年制コース、また反対に、長期在学コースの制度化をはかる。また、地域、産業界との連携や国際交流の推進を一層はかること等が主張されている。(3)は、上記(1)および(2)を実現化していくために、学長のリーダーシップ発揮のための学長補佐体制の整備、評議会の審議事項の明確化による全学的意思決定と実行、そして学外有識者の助言等を取り入れる大学運営協議会の設置がいわれる。(4)は、多面的な評価システムを確立するために第三者機関による評価を実施し教育研究の不断の改善を求めている。

大学審議会在が文部省の高等教育行政に占める位置を考えると、答申の意味は大きく、法令の改正も視野にいれながら、金沢大学が答申内容をどこまで取り入れられるか、あるいは何らかの工夫(「上のせ」、「横出し」等)を加えることができるかという全学的対応が問われている。

理学部
第6回見学会

「ふれてサイエンス」を開く
(Feel the Science)

理学部は、11月1日、見学会「ふれてサイエンス(Feel the Science)」を同学部を会場に開催した。この見学会は、同学部の角間キャンパスへの移転を機に、自然科学とのふれあいや理学の教育研究を一般の人に広めることを目的として毎年実施している。

6回目となる今回は、「数学相談コーナー」(数学科)、「氷の部屋」(物理学科)、「チーズを作ろう」(化学科)、「植物も眠る」(生物学科)、「岩石を知ろう」(地球学科)、「コンピュータで遊ぼう」(計算科学科)など、全部で22の趣向を凝らしたコーナーを学生が主体となって開設して実演などを行い、中学・高校生や親子連れら約600人が日ごろなじみの薄い理学の一端を楽しんだ。



最古の加工食品であるチーズ作りに挑戦(化学科)
= 11月1日、理学部で



物質の第4の状態であるプラズマの作り方の解説・実験(物理学科)
= 同上





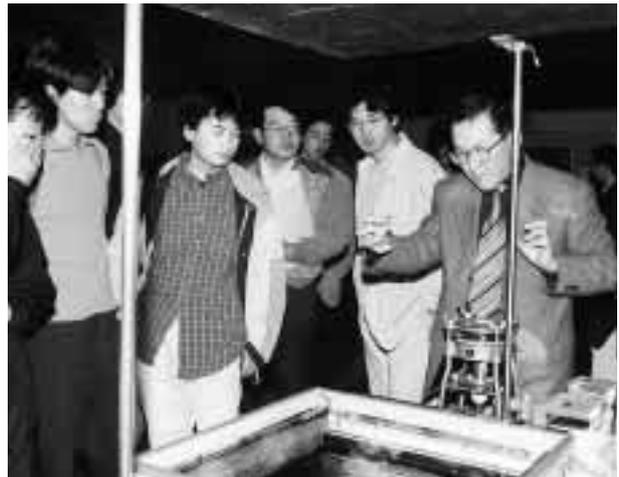
キュリー夫妻のラジウム発見100周年を記念して 市民を対象に講演会

11月8日、金沢市文化ホールを会場として、本学の放射線研究に関する各部局の教官が一般市民を対象に「キュリー夫妻ラジウム発見100周年記念講演会」を開いた。

これは、レントゲンのX線発見、ベクレルのウラン放射能の発見に続いて、1898年にキュリー夫妻が新元素「ラジウム」を発見して今年がちょうど100周年に当たることを記念して開催したもので、各教官は、それぞれの専門を生かして児童・生徒などにも分かりやすく解説し、参加した約200人の聴衆は興味津々の表情で学んだ。また、特別プログラムとして、キュリー夫妻が膨大な鉱石からラジウムを抽出するために苦労した様子を収めた100年前の貴重なフィルムが公開され、話題を集めた。



アイソトープと生命科学のかかわりを説明する中西義信教授(薬学部)
= 同上



放射線を目で見る実験の解説を聞く参加者
= 11月8日、金沢市文化ホールで

「平成10年度永年勤続者表彰式」を挙行



岡田学長から表彰状を受け取る被表彰者総代
= 11月24日、大学会館ホールで

11月24日、大学会館ホールにおいて、「平成10年度永年勤続者表彰式」が行われた。

今年度の表彰対象者は95名(金沢大学永年勤続者91名及び文部省永年勤続者4名)で、岡田晃学長から表彰状とお祝いの言葉が贈られた。また、式典終了後、会場を移して祝賀会が催された。

関連の写真もう1枚を裏表紙にカラーで紹介



分子情報医学系専攻(医学研究科)の新設を記念して 国際シンポジウムを開催



ピティエ・サルベトリエール病院(パリ)・G・N研究室ディレクターのジャック・マレ博士の講演
= 11月13日, 医学部記念館で

平成10年度に大学院医学研究科の独立専攻として「分子情報医学系専攻」が新設されたが, 11月13・14日の両日, これを記念した国際シンポジウム「神経系におけるコリン作動性神経伝達物質の機能と機能不全症」が開催された。

会場となった医学部記念館には, 本学の医学部, 同附属病院, 薬学部, がん研究所などの教官を中心に約100人の参加者が集まり, 一つの講演が終わるたびに熱心な質疑が繰り返された。



「神経科学の将来展望」と題して行われた理化学研究所脳神経総合センター伊藤正男所長の基調講演での質疑
= 同上

「時代を拓く矢を放て!」をテーマに「第35回金大祭」が行われる

10月31日から11月3日までの4日間, 角間キャンパスを中心に「第35回金大祭」が開催され, 高校生など一般市民も参加して各種行事が繰り広げられた。

今回はメイン企画として, 芥川賞作家の辺見庸氏が「世界の虚偽と独り旅の可能性について」と題して講演を行い, 会場には約250人の学生らが集まった。



恒例の仮装で街中を練り歩く金大生
= 10月30日, 香林坊付近で



客との掛け合いが楽しい模擬店の様子
= 10月31日, 大学会館前広場で





各キャンパスで“火災予防訓練”を実施

11月11日,事務局・学生部で火災予防訓練が実施され,初期消火の基礎訓練が行われた。また,13日には医学部医学科で,26日には同保健学科で,27日は医学部附属病院でも防火訓練が行われ,参加した教職員はそれぞれ真剣な表情で取り組んだ。



消火器について真剣に説明を聞く参加者
= 同左



消火器を使っての消火訓練の様
= 11月11日,本部棟横で



避難誘導訓練の様
= 11月27日,医学部附属病院病棟で

平成10年度 研究動物慰霊法要を執り行う

平成10年度研究動物慰霊法要が,11月12日,医学部長をはじめとした関係教職員,学生ら130人余りが参列して,市内の寺で執り行われた。

この法要は,ここ1年間に医学の発展のため命を捧げた実験用動物を弔うもので,医学部,薬学部及びがん研究所の共催で毎年実施している。読経の流れる中,参加者は順次焼香を行い,それぞれの想いを巡らせていた。



しめやかに執り行われた慰霊法要
= 11月12日,善徳寺(金沢市石引)で

11月の研修スナップ

第6回(平成10年度)北陸地区国立 学校人事事務研修

期 日: 11月9日~11日
受講者: 北陸地区国立学校等の人事事務担当者 12名
場 所: 事務局第2会議室及び国立能登青年の家



人事事務の基本的知識についての講義を行う糸崎喜一人事課長
= 11月9日,事務局第2会議室で



“寮祭前夜祭”に学長らが激励

11月7日、恒例の寮祭前夜祭が行われ、約500人の学生が参加した。このうち、「北浜寮」と「白梅寮」で行われた夕食会には、岡田晃学長と大橋信喜美留学生センター長が激励に駆け付けた。これまでにほとんど前例のない出来事だけに、学長のあいさつや肩を組んでの寮歌斉唱に寮生たちは大感激の様子であった。

寮生たちはこの後、3寮合同の「みこし行列」で金沢市内を練り歩いたり、「ファイヤーストーム」を楽しむなどして、前夜祭は終始活気にあふれた。



コントの一場面で飛び入りの激励をする岡田学長
= 11月7日、白梅寮食堂で

平成10年度石川県共済組合支部連合会 体育大会(バドミントン)で金大が優勝!

10月13日から11月21日までの間に平成10年度石川県共済組合支部連合会体育大会が行われ、ソフトボール、卓球、バドミントン、ボウリングの4種目に熱戦が繰り広げられた。

このうち、バドミントンでは本学が1位と2位を独占。ソフトボールは3位となった。また、卓球女子個人では沢田さつきさん(医学部)が2位に、ボウリング個人では浦野勲さん(学生部)が4位に入った



1位と2位を独占した本学バドミントンの選手
= 11月20日、城東市民体育館で



金沢大学50年の歩み

50年史編纂室収集資料から
(その5)江戸初期の冷温庫発見・城内発掘の成果
昭和40年代前半

本学は「金沢城」をメインキャンパスに昭和24年に設置されたが、この金沢城址の本格的な学術的調査は、各学部校舎などの改築整備が一段落した昭和41年に金沢城学術調査委員会を発足させ、「歴史・地理・自然」の調査に着手したのが始まりである。昭和44年には、主として金沢城二の丸跡*の発掘調査が行われ、二の丸殿舎群跡の礎石や廃水施設の発見、更には陶磁器、木器など多数が出土した。この発掘調査で特筆されるのは、城の石垣作りの職人集団として名高い「穴太衆」^{あなうしゅう}が作ったものと推定される江戸初期の「石室(当時の冷温庫)**」が発掘されたことである。これは、金沢城絵図にも記載されていないもので、その構造・出土遺物から、本調査の大きな収穫となった。この石室からは多量のうりの種が発見されており、主として食料貯蔵庫として使われたと見られる。

(出土品は本学資料館で保存)



二の丸石室跡「くぐり抜け階段」



二の丸石室跡の調査風景

註) * 城内キャンパス法文学部と附属図書館に囲まれた一帯。

** 石室の遺構は、長さ813cm、幅103~95cm、深さ約220cmで、この場所には約18の地下水の湧出があった。

【参考文献】 「金沢城跡の発掘」 金沢大学金沢城学術調査委員会 昭和44年3月31日発行
「金沢城二の丸跡発掘調査概報」 1970年3月 石川県教育委員会
「金沢城跡」 - 金沢城跡遺構実態調査概要報告書 平成5年3月31日発行
編集:金沢御堂・金沢城調査委員会 発行:石川県教育委員会
「金沢城と前田氏領内の諸城」(日本城郭史研究叢書5) 編者:喜内 敏
「北国新聞」昭和44年7月28日付け掲載記事



本学関係者2名に“北國文化賞”

11月3日、北國新聞会館(金沢市香林坊)で「第52回北國文化賞」の贈呈式が行われ、2名の本学関係者が受賞した。小堀為雄名誉教授は金沢の街づくりに貢献し、金沢職人大学校理事長としても人材育成に尽くしたこと、また、渡邊洋宇^{よあ}附属病院長は我が国における肺がん研究で指導的役割を果たすとともに、肺機能を残す治療法を確立したことが評価されたものである。



小堀名誉教授夫妻とお祝いに駆け付けた金子曾政元^{かつまさ}学長(右)
= 11月3日、北國新聞会館で



賞杯を手にする渡邊洋宇^{よあ}附属病院長
= 11月16日、附属病院長室で

秋の叙勲で本学関係者2名が受章

11月3日、平成10年度の秋の叙勲受章者が発表され、本学関係では、次の2名の方々が栄えある勲章を受章した。



勲二等瑞宝章
やまもと しんじろう
山本 信二郎 氏
(名誉教授、
元医学部長)



勲六等宝冠章
ひらた まりこ
平田 萬里子 氏
(元医学部附属病院
副看護部長)

附属中学校の石野副校長 “文部省教育者表彰”を受賞

11月16日、平成10年度文部省教育者表彰の被表彰者として、本学教育学部附属中学校石野武志副校長が選ばれた。

石野副校長は、附属学校園の総合移転計画を進めるなど学校運営に力を発揮し、良い校風づくりに努めるとともに、社会科教育の推進に尽力したことなどが評価された。



表彰を受けた石野副校長
= 11月20日、国立劇場大劇場前で

編集後記

4月に赴任して、初めての北陸地方・金沢の冬を迎える。ここまでは必要以上に寒さを気にすることもなく、金沢の生活を楽しませてもらっている。良い町である。

今、金沢市民の歌をテープで聴いている。金沢の四季の素晴らしさを、金沢の春はあんずの花が咲き、夏は浅野川・犀川の岸辺に遊び、秋は金木犀が匂い、冬はかりがね橋の白い雪と、歌っている。

この冬は、どのような気候になるのだろうか。「18年ぶり

の大雪になる」という情報もでている。雪がきって、雪下ろして.....どんなものでしょうか。経験してみたいような、したくないような、なぜか楽しみでもある。

今年もいろいろな行事・ニュースがあった。積極的に参加もした。何事を経験するのも、健康な身体があつてのことである。

今年一年の健康に感謝しつつ、来年も皆様にとっても良き年でありますように.....。(吉田)



永年勤続者表彰を受けた方々
= 11月24日，大学会館ホールで(関連記事は3ページ)

(橋本写真館 撮影)

THE DORAKU ⑥

剣 舞

『己を鍛え，精神を養い，技を磨く。まさに武道の精神なり。』

宗家高桑剣月率いる剣月流一門として私が持つ信念である。私は剣詩舞刀法道とは，ひとつの武士道ではないかと思う。道を極めんと切磋琢磨し，舞台上に臨む。まさしく戦場へ赴く武士の如く。そして，勝鬨を上げた者だけが宴の席で舞うことを許されるのだ。

今年の審査会で免許皆伝と認められ，さらに精進しなくては行けない。

『私は戦国に生きた武士たちの精神と魂を受け継ぐ現代の武士なのだ！』

高野陽子(経理部経理課)



第22回剣月流大会で練習の成果を披露する高野さん

このコーナーは，皆さんの趣味や熱中していることなどを紹介するコーナーです。写真や絵画に限らず，いろいろな作品や季節感あふれる話題などをお寄せください。いつでも撮影に出向きます。

平成10年12月18日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
金沢大学庶務部庶務課研究協力・広報係

TEL 076-264-5019
FAX 076-234-4010

本紙の内容，その他本学に関する諸情報については，「金沢大学ホームページ 愛称 “ KUPIS ” (キュービーズ) 」

(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。

本紙に関する御意見・御要望などは，電子メール (E-mail) = general1@kenroku.ipc.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。

